

# 伊賀市都市マスタープラン

－市民アンケート調査結果－

2020（令和2）年10月

伊賀市

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の概要

### 1) 調査目的

まちづくりの現状に対する満足度等の評価や今後充実すべき都市機能、重点的に行うべき施策など、「まちづくり」に関する意見を伺い、長期的なまちづくりの基本指針となる都市マスタープラン改定のための基礎資料とするものである。

2) 調査対象：市内在住 18 歳以上の市民 2,500 人

3) 調査期間：令和 2 年 8 月 3 日～8 月 21 日

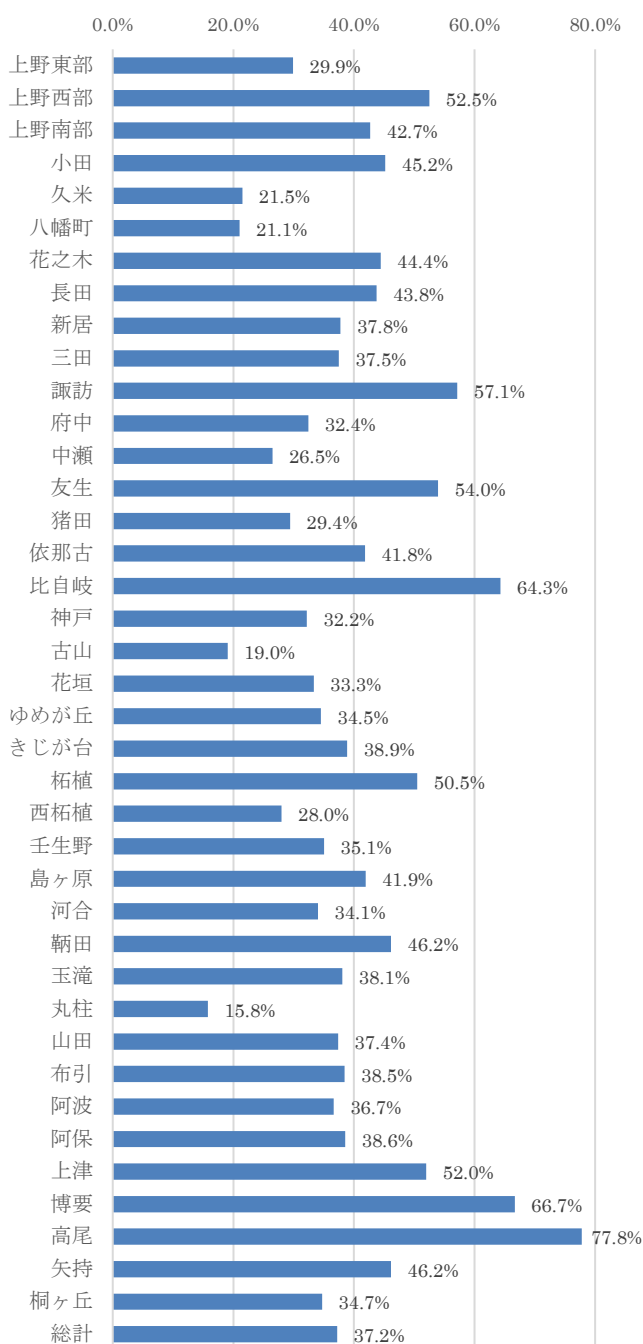
4) 調査方法：郵送調査

5) 回答状況：回答者数 930 人（回答率 37.2%）

6) 集計方法：設問が複数回答の場合は、回答項目を全票数で割って比率を計算する。

### 7) 住民自治協議会別の配布数、回収数、回収率

住民自治協議会	配布数	回収数	回収率
1. 上野東部	341	102	29.9%
2. 上野西部	80	42	52.5%
3. 上野南部	96	41	42.7%
4. 小田	73	33	45.2%
5. 久米	93	20	21.5%
6. 八幡町	19	4	21.1%
7. 花之木	27	12	44.4%
8. 長田	32	14	43.8%
9. 新居	90	34	37.8%
10. 三田	48	18	37.5%
11. 諏訪	14	8	57.1%
12. 府中	111	36	32.4%
13. 中瀬	83	22	26.5%
14. 友生	63	34	54.0%
15. 猪田	51	15	29.4%
16. 依那古	55	23	41.8%
17. 比自岐	14	9	64.3%
18. 神戸	59	19	32.2%
19. 古山	21	4	19.0%
20. 花垣	39	13	33.3%
21. ゆめが丘	139	48	34.5%
22. きじが台	18	7	38.9%
23. 柘植	97	49	50.5%
24. 西柘植	75	21	28.0%
25. 壬生野	97	34	35.1%
26. 島ヶ原	62	26	41.9%
27. 河合	91	31	34.1%
28. 鞆田	39	18	46.2%
29. 玉滝	42	16	38.1%
30. 丸柱	19	3	15.8%
31. 山田	99	37	37.4%
32. 布引	13	5	38.5%
33. 阿波	30	11	36.7%
34. 阿保	70	27	38.6%
35. 上津	25	13	52.0%
36. 博要	9	6	66.7%
37. 高尾	9	7	77.8%
38. 矢持	13	6	46.2%
39. 桐ヶ丘	144	50	34.7%
無回答	—	12	—
総計	2,500	930	37.2%



## (2) 調査結果の概要

### 1) 回答者の属性

回答者は、女性がやや多く、年齢層は70～74歳未満が最も多いものの、20歳代から75歳以上まで幅広い。世帯構成は二世帯（親子）が397件42.7%と最も多く、次いで夫婦のみが258件27.7%となっている。

居住地区は、人口に比例してアンケート票を配布したため、上野東部が102票と最も多い。地域別には、上野地域が558票で最も多く、青山地域、伊賀地域も100票を超えている。

統計上は、384のサンプル数で95%の信頼度5%の誤差となり、伊賀市全体サンプル数はこの基準を満たしている。地域別は、精度を下げ90%の信頼度10%の誤差（統計上の許容範囲）とすると66～68のサンプル数となり、大山田と島ヶ原以外はこの基準を満たしている。

大山田は53票であるが、90%の信頼度、誤差11.2%とある程度の信頼度は確保されている。

島ヶ原については26票で90%の信頼度、誤差16%となり信頼度が落ちるが、市民意向を判断するデータのため、都市マスタープランの策定上は問題ない。

居住年数は、「生まれてから伊賀市に居住」が47.7%と約5割を占める。「Uターン」「転入」の比率は40.3%で、転入前の居住地は大阪府が21.9%で最も多い。転入の理由は、「仕事の都合」28.9%、「結婚」26.2%が多い。

職業は会社員等サラリーマンが36.9%を占めている。

通勤・通学先は、伊賀市内が80.1%（就労・就学していないと無回答除く、以下同じ。）、県内他市が10.1%、県外が9.8%で市内の比率が高い。その交通手段は、84.9%が自動車・オートバイを利用している。

### 2) 居住地区の生活環境の満足度・重要度

生活環境について総合評価すると、満足度が高い5項目は、快適性の項目である「居住環境（騒音・振動・臭気等）」「生活排水による水質汚濁の状況」「周辺の山林や水辺地等の自然環境」「街路樹やまちの緑の豊かさ」、利便性の項目である「国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ」である。

重要度が高い5項目は、利便性の項目である「食品等日常の買い物のしやすさ」「病院、診療所の利用のしやすさ」、安全性の項目である「地震や火災に対する安全性」「犯罪に対する安全性」「交通事故に対する安全性」である。

平均値より満足度が低く、平均値より重要度が高いことより、今後対策が必要と考えられる重要項目は、利便性の項目である「公共交通（バス・鉄道等）の利便性」「病院、診療所の利用のしやすさ」、安全性の項目である「身近な生活道路や歩道の安全性」「交通事故に対する安全性」である。

### 3) 広域的拠点、地域拠点のまちづくりに重要と考える施策

#### ① 広域的拠点 上野中心区域（上野市駅周辺）

上野中心区域に対する重要施策は、「歴史を感じさせる街なみや町家などの景観を保全・活用する」が48.8%を占め、最も多い。次は「ハレの空間づくり」で43.8%である。30%台が、「観光を推進する」、「空き家などの既存資源の活用する」で、既存の歴史資産を最大限活用して、にぎわいや「ハレの場」づくりが求められているといえる。

#### ② 広域的拠点 上野南部区域（新市庁舎周辺）

上野南部区域の重要施策は、「コミュニティバス等により上野南部区域内の公共ネットワーク充実等」が44.0%を占め、最も多い。次は「健康・福祉機能の充実」で41.3%、「便利施設の充実」41.2%と続いている。

30%台は、行政・医療拠点に対応した「憩空間の整備」「高齢者が安心して暮らせる住宅の供給」「公共サービス機能」の充実である。

#### ③ 地域拠点（各支所周辺）

地域拠点（各支所周辺）の重要施策は、「コミュニティバス等による地域交通機能の維持・充実」が51.4%と最も多い。2番目は「医療・保健機能の維持・充実」で50.6%と続いている。

3番目は「便利施設の維持・充実」、4番目は「支所機能の維持・充実」と現在の地域拠点にある機能維持・充実が強く求められている。

### 4) 日常生活における各拠点の利用状況

#### ① 医療

日常生活における医療の利用状況は、各科とも広域的拠点の占める比率が高く、特に40%を超えているのは、外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科である。

高次医療施設の利用は、内科、外科が10%程度で他は少ない。

地域拠点内は、内科、歯科の利用率が高い。

市外の医療機関については、すべての科で利用されているが、耳鼻咽喉科や眼科という専門性の強い科目で利用率が高い傾向がある。

#### ② 買い物等

日常生活における買物等の利用状況は、食料品と金融機関は地域拠点区域の比率がある程度確保され、その役割が機能しているが、他の項目では低い率となっている。

市外の商業施設は、「高級衣料品」で49.2%、「実用衣料品」28.3%、「家庭電化製品」20.5%、「家族や友人と会食」25.3%と、20%以上となっている。

## 5) 今後伊賀市が行うべき施策

### ① 伊賀市全体の施策

今後伊賀市が行うべき施策で「特に重要」「重要」の合計が最も高いのは、「地震や風水害等の災害に強いまちづくり整備」で75.6%である。

「特に重要」「重要」の合計が50%を超えるのは、「既存道路網の改善や身近な生活道路の整備」61.9%、「公共下水道の整備」52.6%、「伊賀市の顔としての中心市街地の活性化」52.6%、「日常生活拠点として地域拠点の維持・充実」60.6%、「伊賀市の地域資源を活用した産業の育成」52.4% である。

### ② ネットワーク

今後伊賀市が行うべき施策で「特に重要」「重要」の合計が最も高いのは、「広域的拠点や地域拠点間を結ぶバスの利便性の向上」で57.6%である。

「特に重要」「重要」の合計が50%を超えるのは、「⑫鉄道を中心とした公共交通の利便性向上策」50.9%、「⑭居住地区内を走るバスの利便性向上施策」55.9%、「⑰住民自治協議会区域単位での出前サービス施策」53.1%、である。

このように、公共交通の充実は、基幹ルートのみのような特化した施策はなく、鉄道、居住地区内ルートすべてに対して充実が求められている。

なお、「どちらかといえば重要」を加えると、「住民自治協議会区域単位での出前サービス（買い物、医療、行政相談・手続き等）施策」が86.5%で最も高くなっており、公共交通に依存しない利便性向上策も求められている。

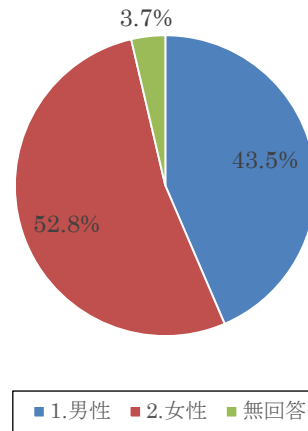
## 2. 調査結果のまとめ

### (1) 回答者の属性

#### 1. 性別【問1(1)】

回答者の性別は、男性が405人43.5%、女性が491人52.3%であり、やや女性が多くなっている。

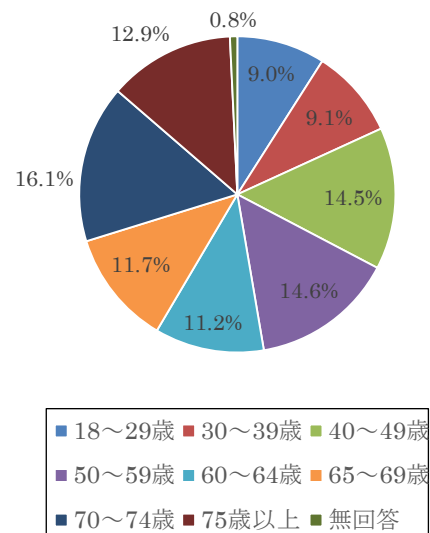
項目	件数	比率
1. 男性	405	43.5%
2. 女性	491	52.8%
無回答	34	3.7%
総計	930	100.0%



#### 2. 年齢【問1(2)】

回答者の年齢層は、70～74歳未満が150件16.1%と最も多く、次いで50歳代が136件14.6%、40歳代が135件14.5%となっている。

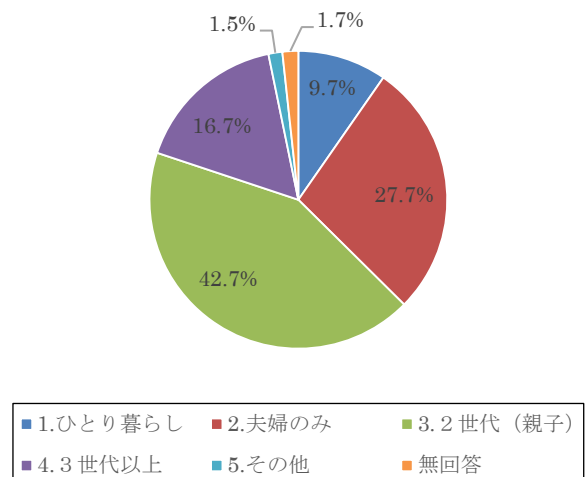
項目	件数	比率
1. 18～29歳	84	9.0%
2. 30歳代	85	9.1%
3. 40歳代	135	14.5%
4. 50歳代	136	14.6%
5. 60～64歳代	104	11.2%
6. 65～69歳代	109	11.7%
7. 70～74歳未満	150	16.1%
8. 75歳以上	120	12.9%
無回答	7	0.8%
総計	930	100.0%



#### 3. 世帯構成【問1(3)】

回答者の世帯は、二世帯（親子）が397件42.7%と最も多く、次いで夫婦のみが258件27.7%となっている。

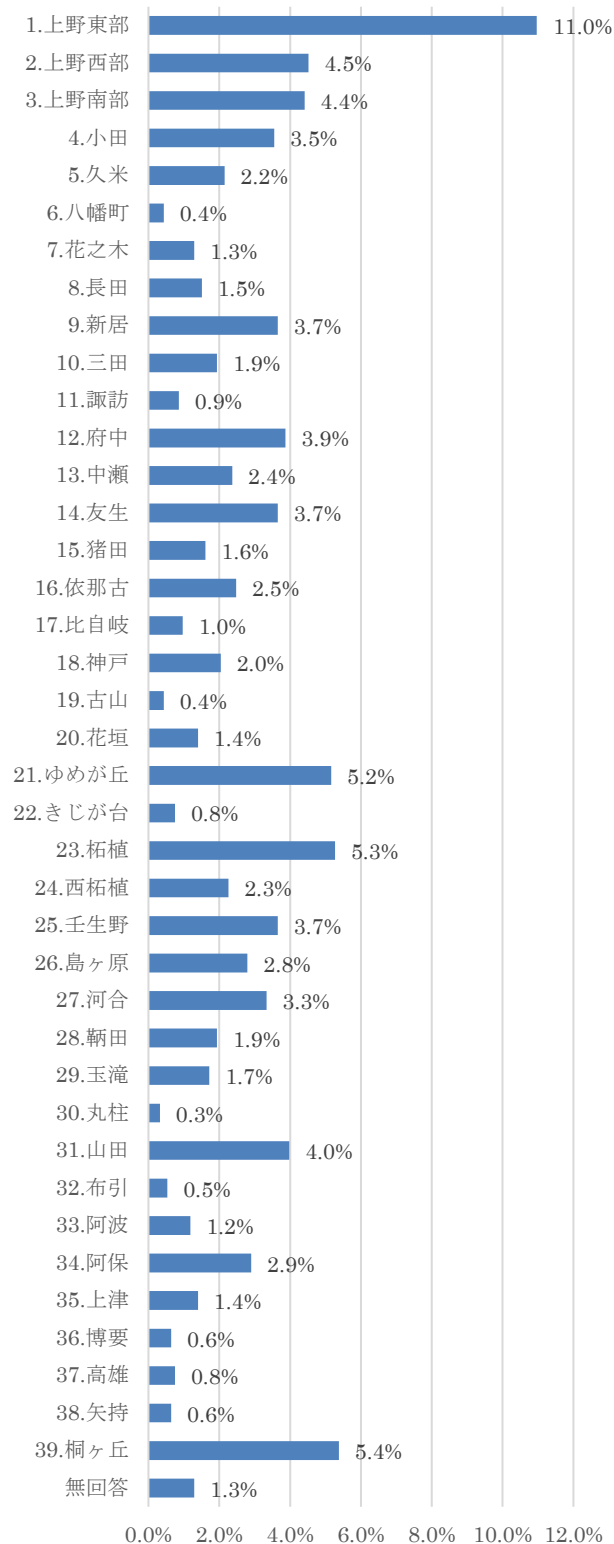
項目	件数	比率
1. ひとり暮らし	90	9.7%
2. 夫婦のみ	258	27.7%
3. 二世帯（親子）	397	42.7%
4. 三世帯以上	155	16.7%
5. その他	14	1.5%
無回答	16	1.7%
総計	930	100%



#### 4. 居住地区【問1(4)】

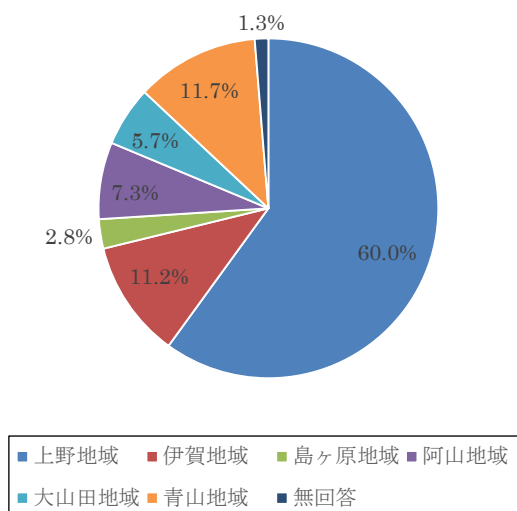
回答者の居住場所（住民自治協議会）は、下記のとおりとなっている。なお、アンケート票の配布数は、各住民自治協議会の人口に比例している。

項目	件数	比率
1. 上野東部	102	11.0%
2. 上野西部	42	4.5%
3. 上野南部	41	4.4%
4. 小田	33	3.5%
5. 久米	20	2.2%
6. 八幡町	4	0.4%
7. 花之木	12	1.3%
8. 長田	14	1.5%
9. 新居	34	3.7%
10. 三田	18	1.9%
11. 諏訪	8	0.9%
12. 府中	36	3.9%
13. 中瀬	22	2.4%
14. 友生	34	3.7%
15. 猪田	15	1.6%
16. 依那古	23	2.5%
17. 比自岐	9	1.0%
18. 神戸	19	2.0%
19. 古山	4	0.4%
20. 花垣	13	1.4%
21. ゆめが丘	48	5.2%
22. きじが台	7	0.8%
23. 柘植	49	5.3%
24. 西柘植	21	2.3%
25. 壬生野	34	3.7%
26. 島ヶ原	26	2.8%
27. 河合	31	3.3%
28. 鞆田	18	1.9%
29. 玉滝	16	1.7%
30. 丸柱	3	0.3%
31. 山田	37	4.0%
32. 布引	5	0.5%
33. 阿波	11	1.2%
34. 阿保	27	2.9%
35. 上津	13	1.4%
36. 博要	6	0.6%
37. 高尾	7	0.8%
38. 矢持	6	0.6%
39. 桐ヶ丘	50	5.4%
無回答	12	1.3%
総計	930	100.0%



統計上は、384 のサンプル数で 95% の信頼度 5 % の誤差となり、伊賀市全体サンプル数はこの基準を満たしている。地域別は、精度を下げ 90% の信頼度 10% の誤差（統計上の許容範囲）とすると 66～68 のサンプル数が必要となり、大山田と島ヶ原が不足するが、大山田の 53 は、90% の信頼度、誤差 11. 2% とある程度の信頼度は確保されている。島ヶ原については 26 票で 90% の信頼度、誤差 16% となり信頼度が落ちるが、市民意向を判断するデータのため、都市マスタープランの策定上は問題ない。

項目	件数	比率
1. 上野地域	558	60. 0%
2. 伊賀地域	104	11. 2%
3. 島ヶ原地域	26	2. 8%
4. 阿山地域	68	7. 3%
5. 大山田地域	53	5. 7%
6. 青山地域	109	11. 7%
無回答	12	1. 3%
総計	930	100. 0%





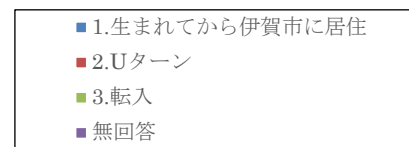
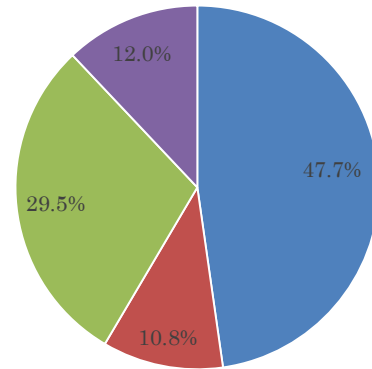
## 5. 居住年数【問1(5)】

回答者の居住年数は、「生まれてから伊賀市に居住」が47.7%と約5割を占める。

「Uターン」「転入」の比率は、40.3%で、転入前の居住地は、大阪府21.9%と最も多い。

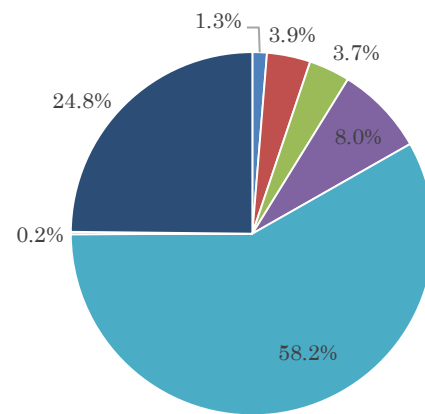
転入の理由は、「仕事の都合」28.9%、「結婚」26.2%と多い。

10年未満の新しい居住者は、回答者の8.9%である。



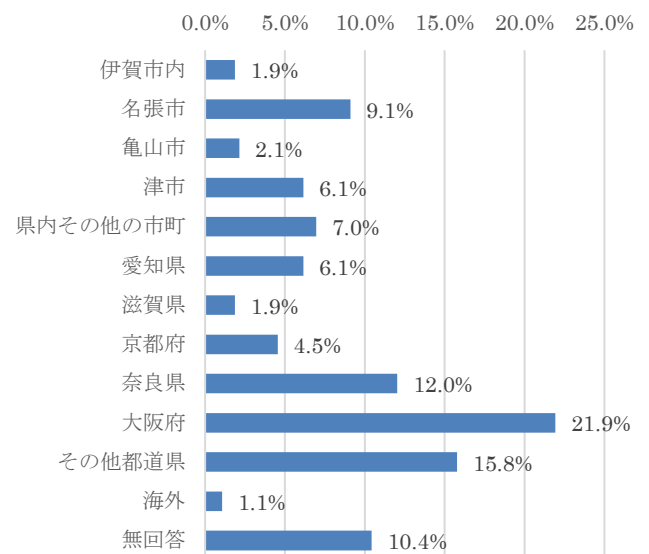
項目	件数	比率
1. 生まれてから伊賀市に居住	444	47.7%
2. Uターン	100	10.8%
3. 転入	274	29.5%
無回答	112	12.0%
総計	930	100.0%

項目	件数	比率
1. 1年未満	12	1.3%
2. 1年以上5年未満	36	3.9%
3. 5年以上10年未満	34	3.7%
4. 10年以上20年未満	74	8.0%
5. 20年以上	541	58.2%
6. わからない	2	0.2%
無回答	231	24.8%
総計	930	100.0%

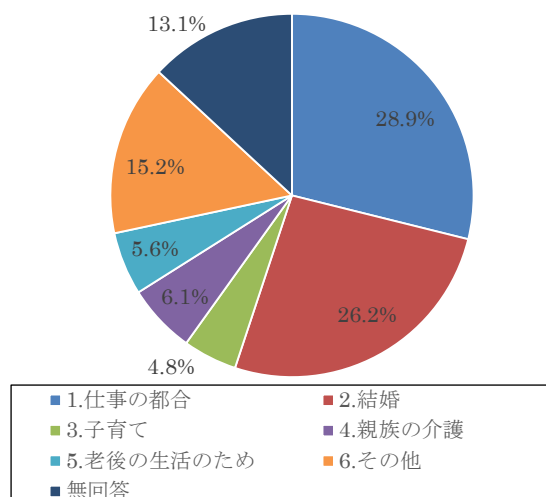


### 転入前

項目	件数	比率
伊賀市内	7	1.9%
名張市	34	9.1%
亀山市	8	2.1%
津市	23	6.1%
県内その他の市町	26	7.0%
愛知県	23	6.1%
滋賀県	7	1.9%
京都府	17	4.5%
奈良県	45	12.0%
大阪府	82	21.9%
其他都道県	59	15.8%
海外	4	1.1%
無回答	39	10.4%
総計	374	100.0%



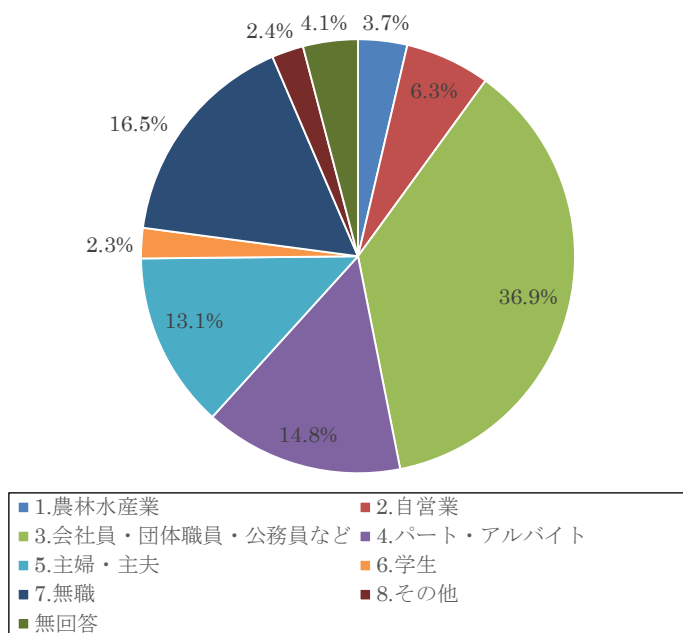
項目	件数	比率
1.仕事の都合	108	28.9%
2.結婚	98	26.2%
3.子育て	18	4.8%
4.親の介護	23	6.1%
5.老後の生活のため	21	5.6%
6.その他	57	15.2%
無回答	49	13.1%
総計	374	100.0%



## 6. 職業【問1(6)】

回答者の職業は、会社員・団体職員・公務員などが343件36.9%と最も多く、次いで無職が153件16.5%となっている。

項目	件数	比率
1.農林水産業	34	3.7%
2.自営業	59	6.3%
3.会社員・団体職員・公務員など	343	36.9%
4.パート・アルバイト	138	14.8%
5.主婦・主夫	122	13.1%
6.学生	21	2.3%
7.無職	153	16.5%
8.その他	22	2.4%
無回答	38	4.1%
総計	930	100.0%

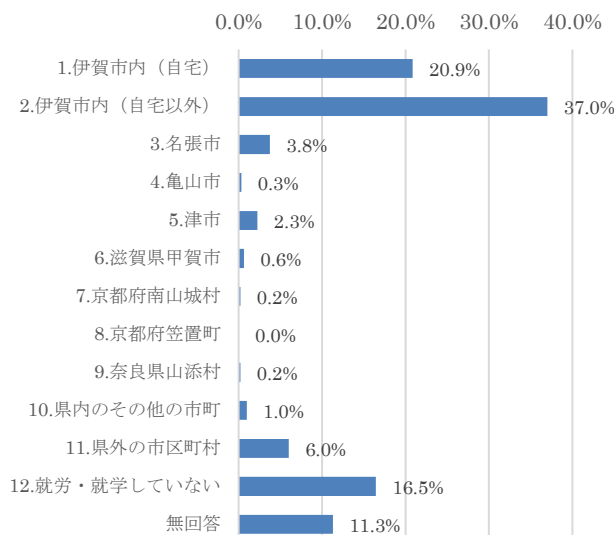


## 7. 就労・就学先【問1(7)】

回答者の就労・就学先は、伊賀市内（自宅以外）が37.0%と最も多く、次いで伊賀市内（自宅）20.9%で、伊賀市内合計は57.9%となっている。

その他の就労・就学先は、県外の市区町村6.0%、名張市3.8%、津市2.3%の順となっているが、市外の就労・就学率は合計でも14.2%と低い率となっている。

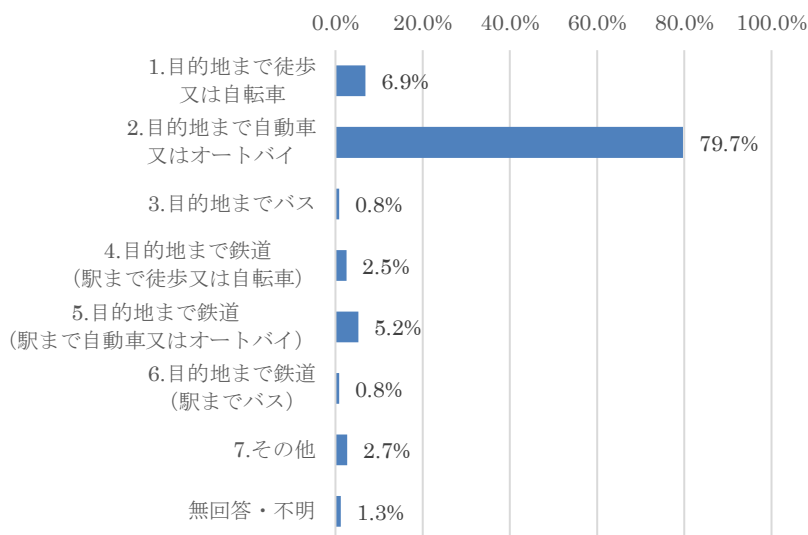
項目	件数	比率
1. 伊賀市内（自宅）	194	20.9%
2. 伊賀市内（自宅以外）	344	37.0%
3. 名張市	35	3.8%
4. 亀山市	3	0.3%
5. 津市	21	2.3%
6. 滋賀県甲賀市	6	0.6%
7. 京都府南山城村	2	0.2%
8. 京都府笠置町	0	0.0%
9. 奈良県山添村	2	0.2%
10. 県内のその他の市町	9	1.0%
11. 県外の市区町村	56	6.0%
12. 就労・就学していない	153	16.5%
無回答	105	11.3%
総計	930	100.0%



## 8. 通勤・通学手段【問1(8)】

回答者の通勤・通学手段は、目的地まで自動車又はオートバイが79.7%と最も多く、鉄道駅までを加えると84.9%に達し、極めて自動車利用が高いことが伺える。バス利用は、鉄道駅までを加えても1.6%に過ぎない。

項目	件数	比率
1. 目的地まで徒歩又は自転車	33	6.9%
2. 目的地まで自動車又はオートバイ	381	79.7%
3. 目的地までバス	4	0.8%
4. 目的地まで鉄道（駅まで徒歩又は自転車）	12	2.5%
5. 目的地まで鉄道（駅まで自動車又はオートバイ）	25	5.2%
6. 目的地まで鉄道（駅までバス）	4	0.8%
7. その他	23	2.7%
無回答	13	1.3%
総計	478	100.0%



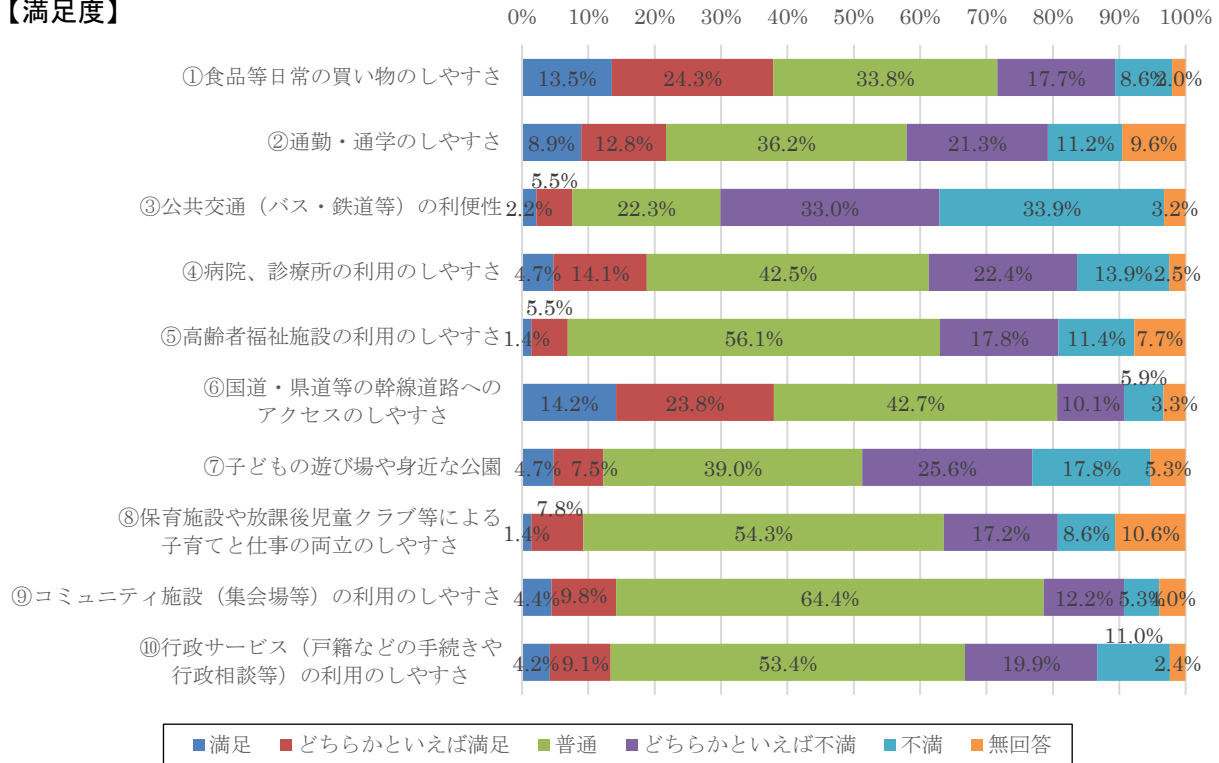
## (2) 居住地区における生活環境の満足度と重要度

### 1. 利便性【問2(1)】

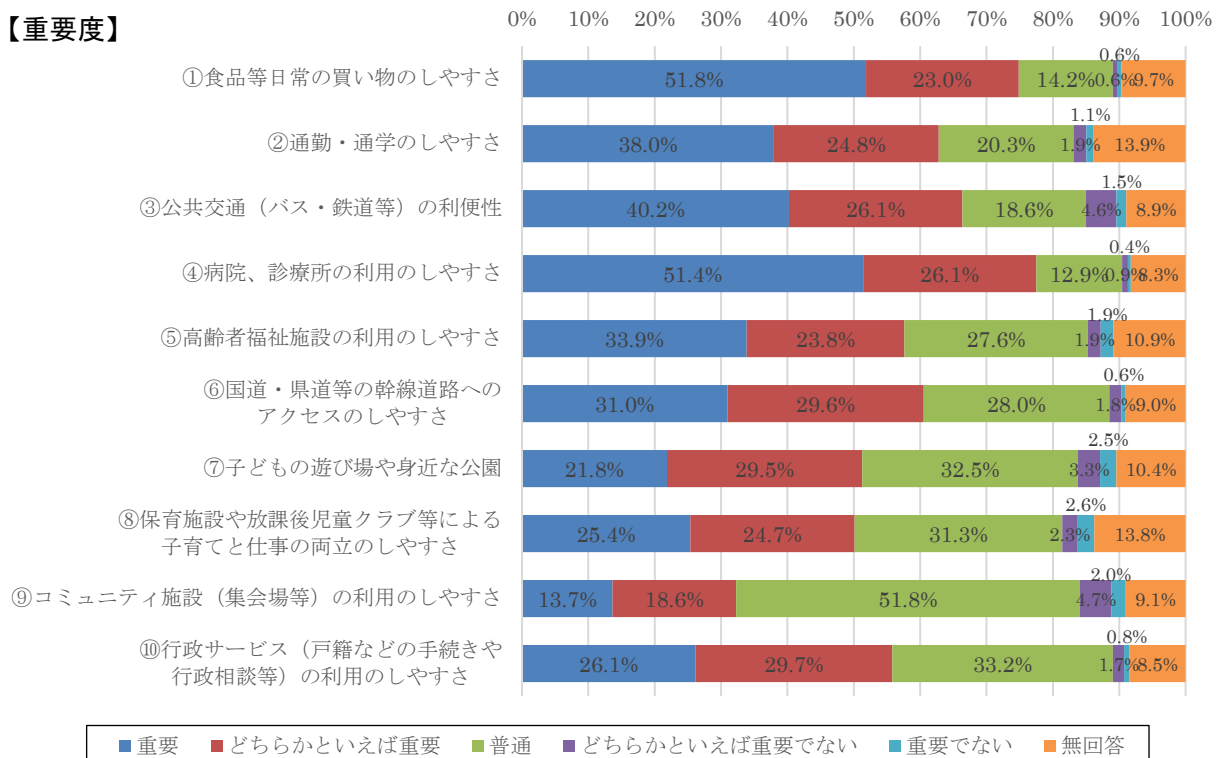
利便性に関する質問10項目の内、比較的満足度が高いのは、「①食品等日常の買い物のしやすさ」「⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ」であるが、いずれも「どちらかといえば満足」を加えても、50%には至らない。一方、「どちらかといえば不満」を加えて50%を超える項目は、「③公共交通（バス・鉄道等）の利便性」である。

重要度については、「どちらかといえば重要」を加えて50%を超えているのは、「⑨コミュニティ施設（集会場等）の利用のしやすさ」を除くすべての項目で、特に「①食品等日常の買い物のしやすさ」「④病院、診療所の利用のしやすさ」が高い。

#### 【満足度】



#### 【重要度】



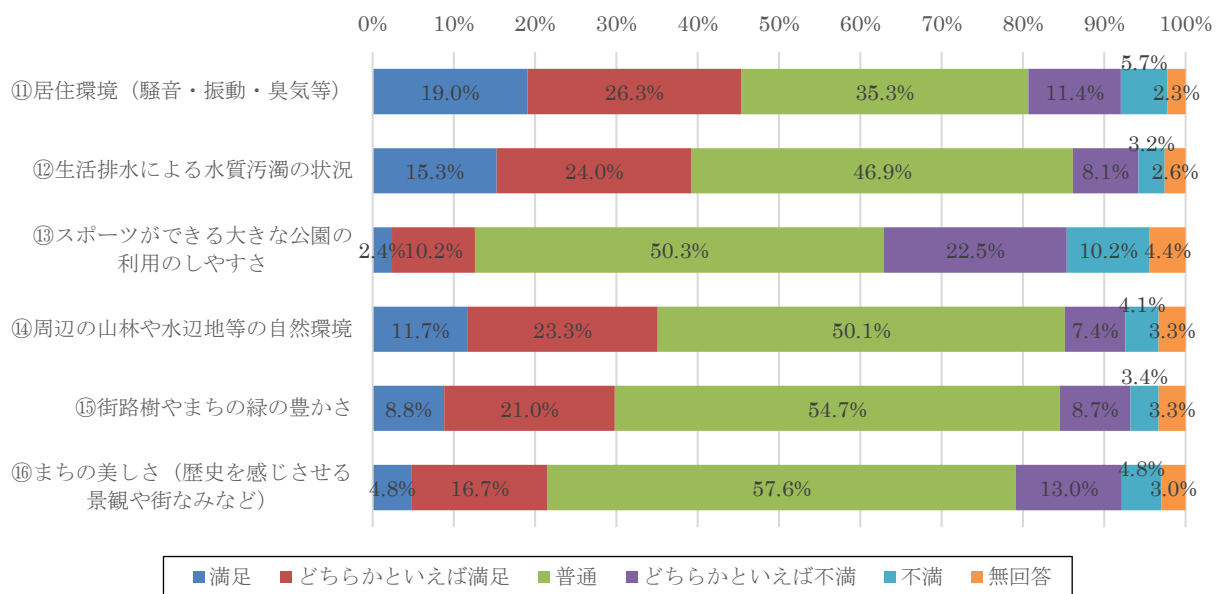
## 2. 快適性【問2(2)】

快適性に関する質問6項目の内、最も満足度が高いのは、「⑪居住環境（騒音・振動・臭気等）」であるが、「どちらかといえば満足」を加えても、50%には至らない。一方、「どちらかといえば不満」を加えて不満度が最も高いのは、「⑬スポーツができる大きな公園の利用のしやすさ」である。

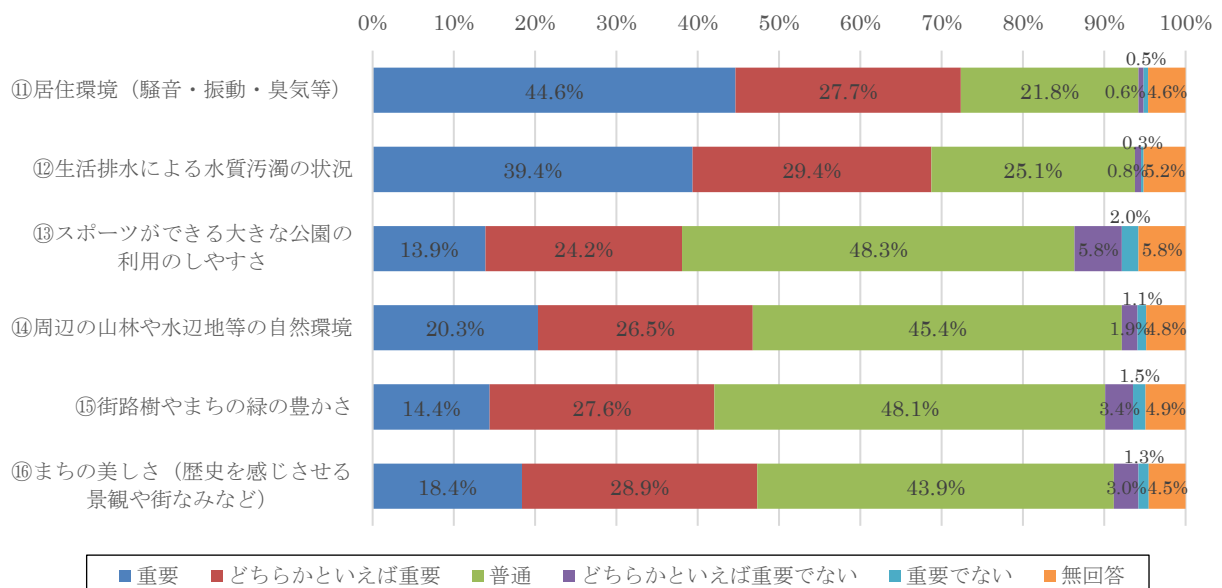
重要度については、「どちらかといえば重要」を加えて50%を超えているのは、「⑪居住環境（騒音・振動・臭気等）」「⑫生活排水による水質汚濁の状況」である。

なお、不満度が最も高い「⑬スポーツができる大きな公園の利用のしやすさ」については、重要度では、6項目の内最も低くなっている。

### 【満足度】



### 【重要度】

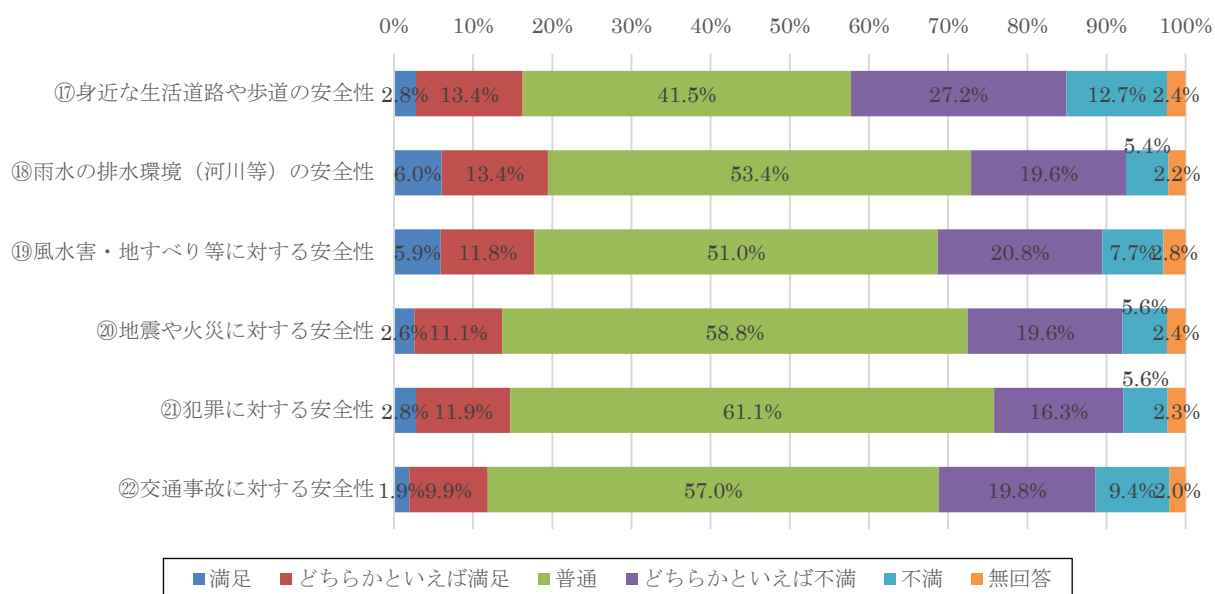


### 3. 安全性【問2(2)】

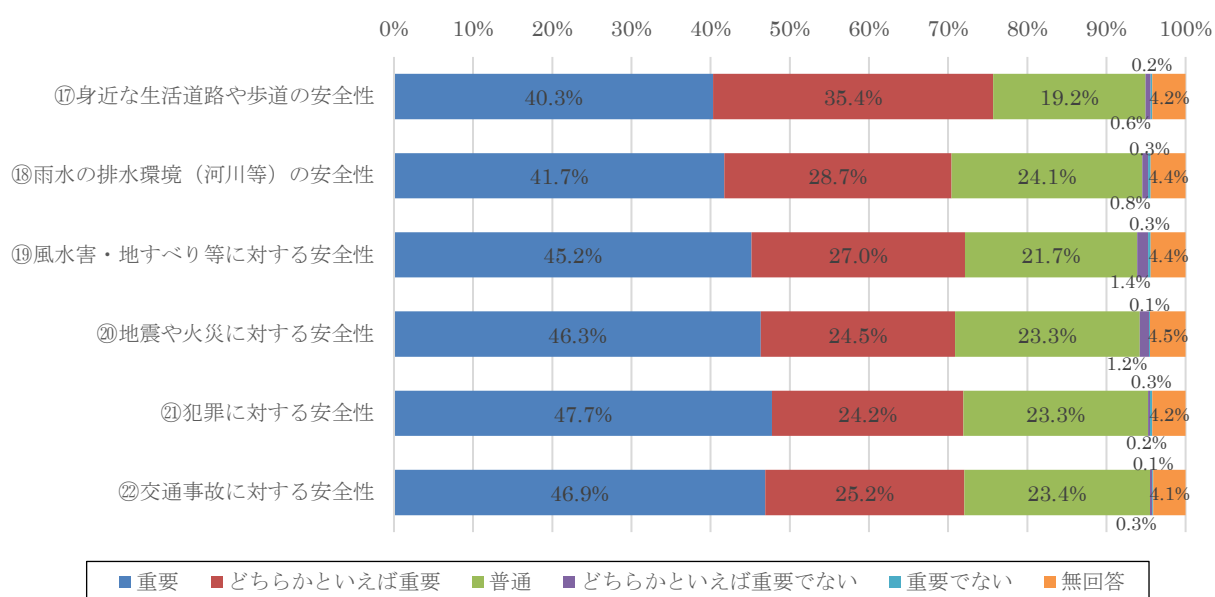
安全性に関する質問6項目に対する満足度は、「どちらかといえば満足」を加えても、すべて20%以下と低く、「どちらかといえば不満」を加えた不満度が、すべての項目で上回っている。

重要度については、「どちらかといえば重要」を加えてすべての項目において70%を超えており、市民の安全性への関心の強さを伺える。

#### 【満足度】



#### 【重要度】

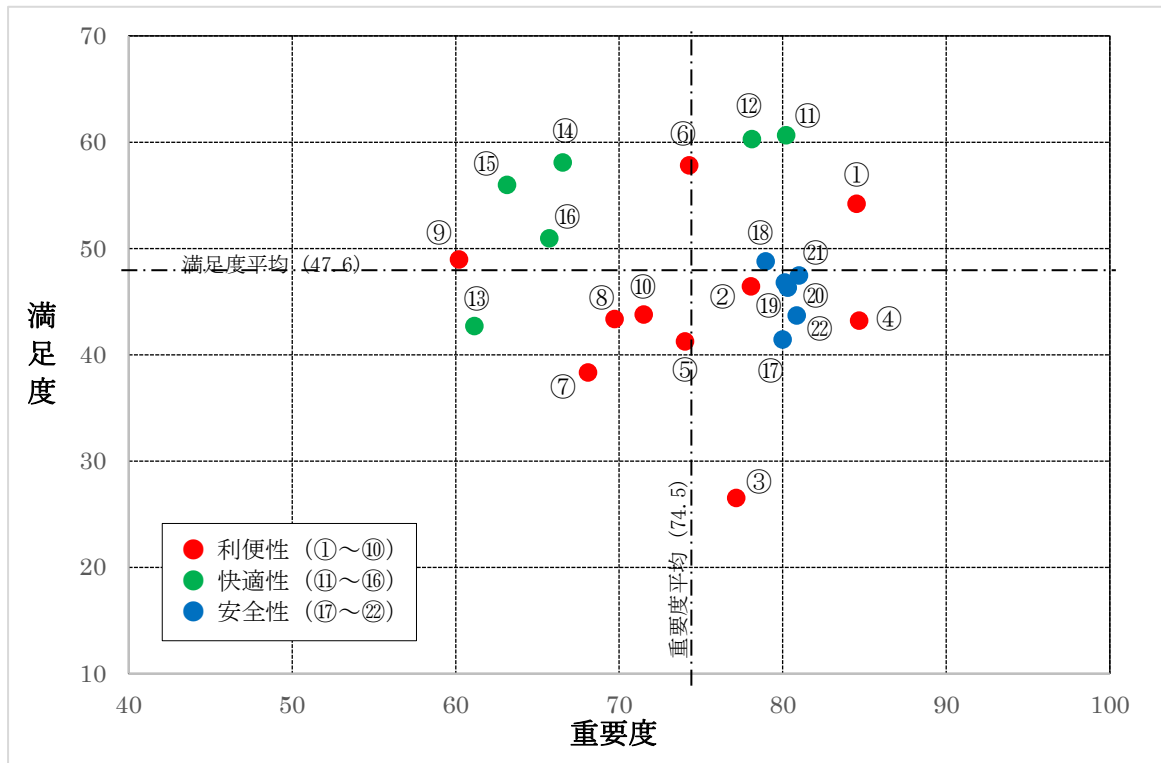


#### 4. 生活環境の評価【問2】

生活環境について総合評価すると、満足度が高い5項目は、快適性の項目である「⑪居住環境（騒音・振動・臭気等）」「⑫生活排水による水質汚濁の状況」「⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境」「⑮街路樹やまちの緑の豊かさ」、利便性の項目である「⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ」である。

重要度が高い5項目は、利便性の項目である「①食品等日常の買い物のしやすさ」「④病院、診療所の利用のしやすさ」、安全性の項目である「⑳地震や火災に対する安全性」「㉑犯罪に対する安全性」「㉒交通事故に対する安全性」である。

平均値より満足度が低く、平均値より重要度が高く、今後対策が必要な重要項目と考えられるのは、利便性の項目である「③公共交通（バス・鉄道等）の利便性」「④病院、診療所の利用のしやすさ」、安全性の項目である「⑰身近な生活道路や歩道の安全性」「㉒交通事故に対する安全性」である。（満足度の平均付近のものは除く。）



利便性	①食品等日常の買い物のしやすさ ②通勤・通学のしやすさ ③公共交通（バス・鉄道等）の利便性 ④病院、診療所の利用のしやすさ ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ ⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ⑧保育施設や放課後児童クラブ等による子育てと仕事の両立のしやすさ ⑨コミュニティ施設（集会場等）の利用のしやすさ ⑩行政サービス（戸籍などの手続きや行政相談等）の利用のしやすさ	快適性	⑪居住環境（騒音・振動・臭気等） ⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑬スポーツができる大きな公園の利用のしやすさ ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境 ⑮街路樹やまちの緑の豊かさ ⑯まちの美しさ（歴史を感じさせる景観や街なみなど）
		安全性	⑰身近な生活道路や歩道の安全性 ⑱雨水の排水環境（河川等）の安全性 ⑲風水害・地すべり等に対する安全性 ⑳地震や火災に対する安全性 ㉑犯罪に対する安全性 ㉒交通事故に対する安全性

満足度の低い第1位は、すべての地域・年代で「③公共交通（バス・鉄道等）の利便性」が第1位であるが、その中で重要度でも第5位以内に入っているのは、地域では「伊賀」、「阿山」、「大山田」、年代では「70歳以上」ある。このことより、公共交通に対して不満は強いが、切実な問題と考えているのは70歳以上と考えられる。

「④病院、診療所の利用のしやすさ」については、「伊賀」、「阿山」、「大山田」、「青山」において、満足度の低さ、重要度の高さ、どちらも第5位以内である。

その他でどちらも第5位以内は、「阿山」の「⑩身近な生活道路や歩道の安全性」、「島ヶ原」の「⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ」「⑨風水害・地すべり等に対する安全性」、「大山田」の「②通勤・通学のしやすさ」「⑩身近な生活道路や歩道の安全性」、「青山」の「①食品等日常の買い物のしやすさ」と利便性、安全性に関する事項である。

年代別には、50歳未満の層は道路の安全性に関して不満を感じ、施策の重要性を感じている。

#### ■地域・年代別満足度・重要度比較

地域・年代区分	評価	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	満足度の低い順	③	⑦	⑤	⑰	④
	重要度の高い順	④	①	⑳	㉒	㉑
上野地域	満足度の低い順	③	⑦	⑰	⑬	⑤
	重要度の高い順	①	④	㉒	㉑	㉑
伊賀地域	満足度の低い順	③	⑦	⑤	④	⑧
	重要度の高い順	④	①	⑪	③	②
阿山地域	満足度の低い順	③	⑦	②	⑰	④
	重要度の高い順	⑰	④	③	㉑	⑰
島ヶ原地域	満足度の低い順	③	⑬	⑤	⑰	⑳
	重要度の高い順	④	⑤	⑰	⑱	①
大山田地域	満足度の低い順	③	②	④	⑰	⑤
	重要度の高い順	④	③	②	㉒	⑰
青山地域	満足度の低い順	③	⑦	④	①	⑤
	重要度の高い順	①	④	㉑	⑰	㉑
18歳～29歳以下	満足度の低い順	③	⑰	㉒	⑦	⑧
	重要度の高い順	①	㉑	㉒	②	⑰
30歳代	満足度の低い順	③	⑰	⑦	⑧	㉒
	重要度の高い順	㉑	④	⑱⑲⑳㉒		
40歳代	満足度の低い順	③	⑦	⑤	⑬⑰	
	重要度の高い順	①	㉑	㉒	④	⑰
50歳代	満足度の低い順	③	⑤	⑦	④	⑰
	重要度の高い順	④	①	㉑	②	㉑
60～64歳以下	満足度の低い順	③	⑦	⑤	⑰	⑩
	重要度の高い順	①	④	⑰	⑪	⑰
65～69歳以下	満足度の低い順	③	⑦	⑰	⑬	②
	重要度の高い順	④	⑪	①	⑫	㉒
70～74歳以下	満足度の低い順	③	⑦	⑤	⑰	④
	重要度の高い順	④	①	⑪	③	⑫
75歳以上	満足度の低い順	③	⑦	⑤	⑩	⑧
	重要度の高い順	①	④	⑤	㉑	③



### (3) 広域的拠点、地域拠点のまちづくりに重要と考える施策

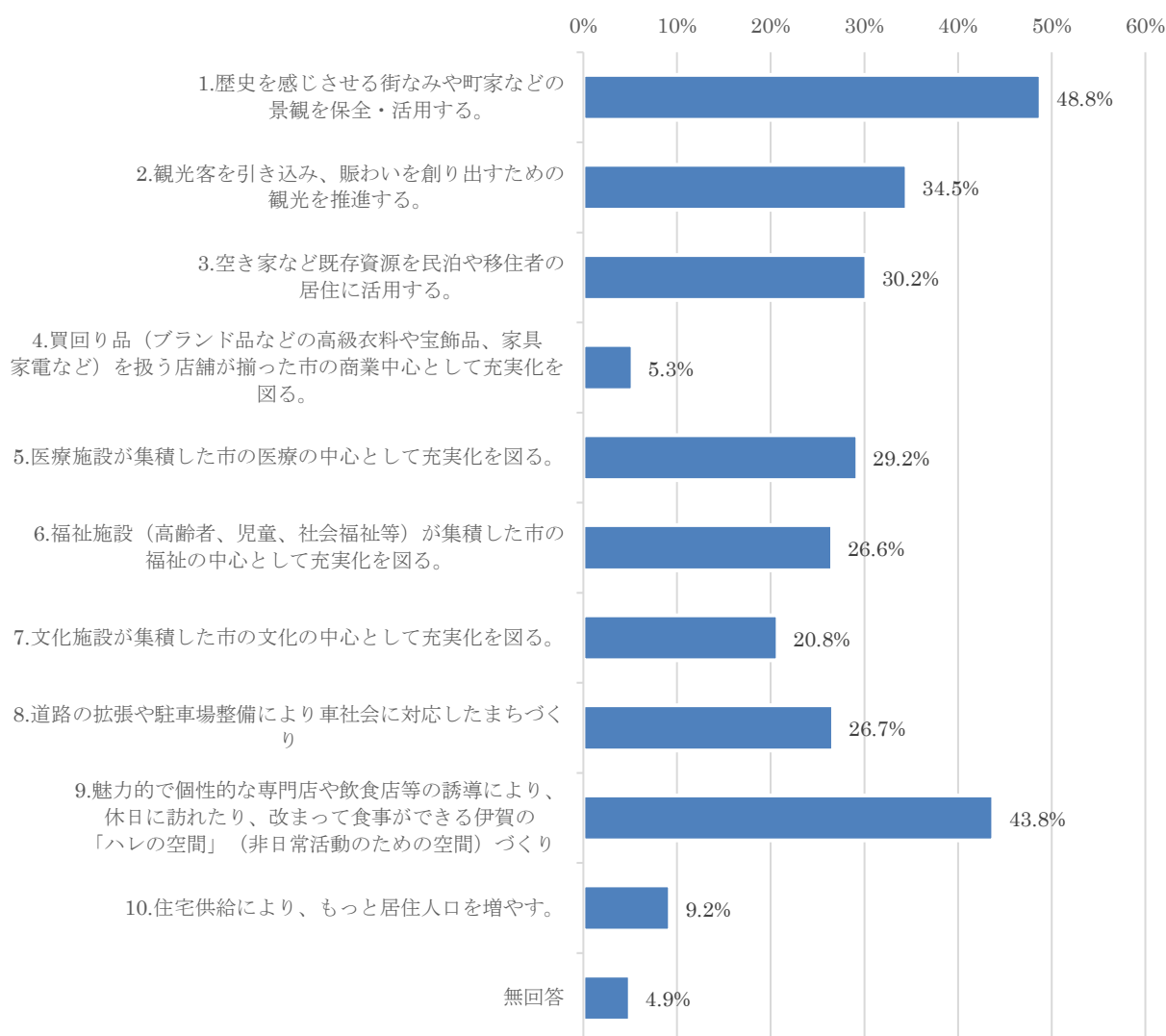
#### 1. 広域的拠点 上野中心区域（上野市駅周辺）【問3(1)】（複数回答、3つ以内）

上野中心区域に対する重要施策は、「1.歴史を感じさせる街なみや町家などの景観を保全・活用する」が最も多い。次は「9.「ハレの空間」づくり」である。3、4番目が、「2.観光を推進する」、「3.空き家などの既存資源の活用する」で、既存の歴史資産を最大限活用して、にぎわいや「ハレの場」づくりが求められているといえる。

一方、「4.買回り品を扱う店舗が揃った市の商業中心地」や「10.住宅供給による居住人口増加」など都市構造の変化につながる施策は、市民の要請は低い。

自由記述の主な意見からは、居住環境の改善要望が多くみられる。

- ・旧市役所の利活用
- ・安全に歩ける歩道整備
- ・駐車場の確保（公共駐車場の増加等）
- ・安全な道路の整備（対向スペースの確保等）
- ・そこに暮らす住民の住みよその確保
- ・公共下水道整備



## 2. 広域的拠点 上野南部区域（新市役所周辺）【問3(2)】（複数回答、3つ以内）

上野南部区域の重要施策は、「2. コミュニティバス等により上野南部区域内の公共ネットワーク充実等」が44.0%と最も多い。他の40%台は、「3. 健康・福祉機能の充実」、「6. 利便施設の充実」と続いている。

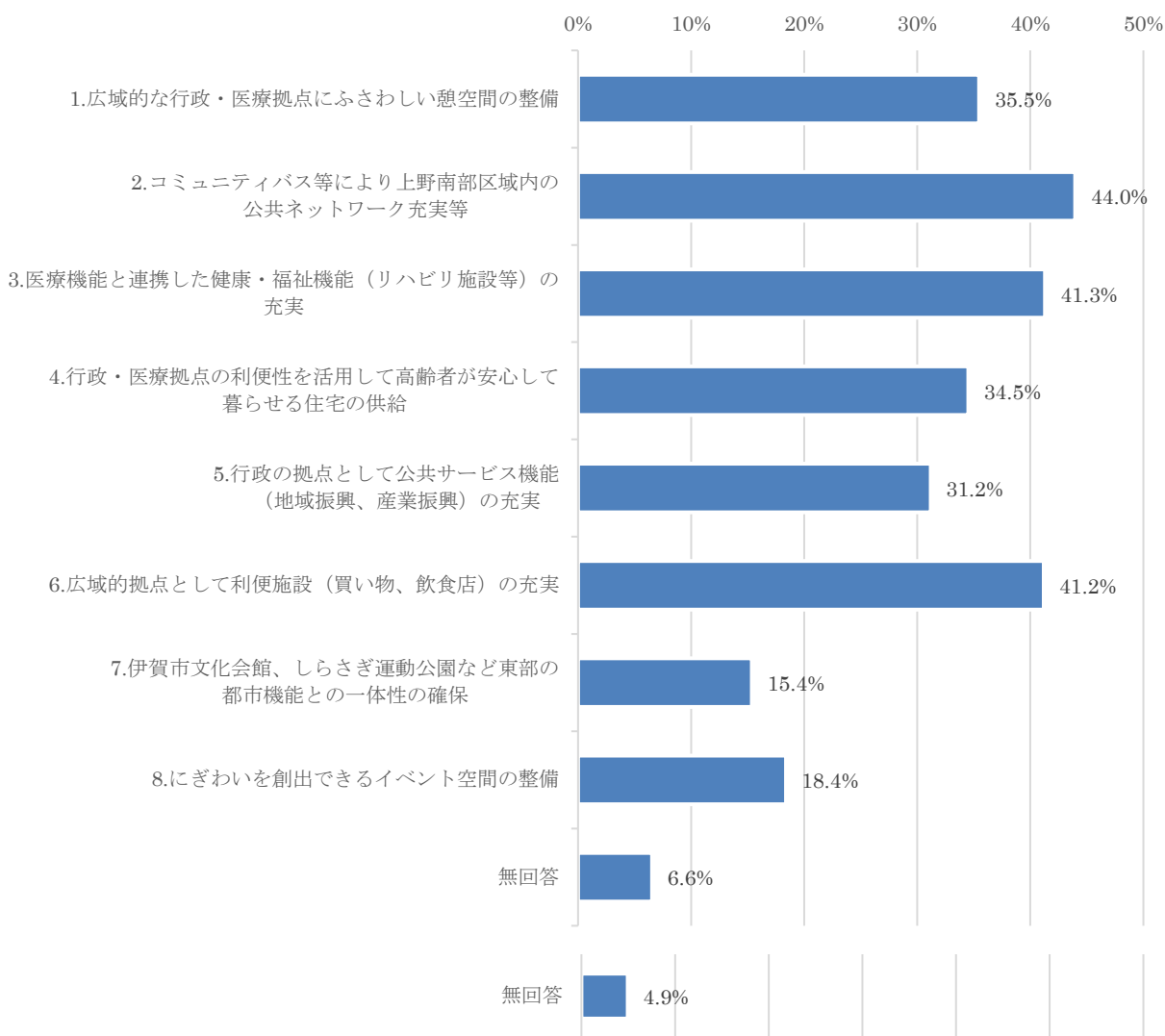
30%台は、行政・医療拠点としての立地特性に対応した施策で、「1. 憩空間の整備」「4. 高齢者が安心して暮らせる住宅の供給」「5. 公共サービス機能」の充実である。

一方、「7. 東部の都市機能との一体性の確保」や「8. イベント空間の整備」は、要望は低く、南部に新たなにぎわい拠点をつくることには否定的といえる。

自由記述の主な意見からは、交通ネットワーク（車・歩行者系とも）の改善要望が高い。

また、南部の整備は不要（伊賀市に2つの広域的拠点はいらぬなど）という意見が多くみられることより、新たな都市拠点づくりではなく、現状の改善が求められているといえる。

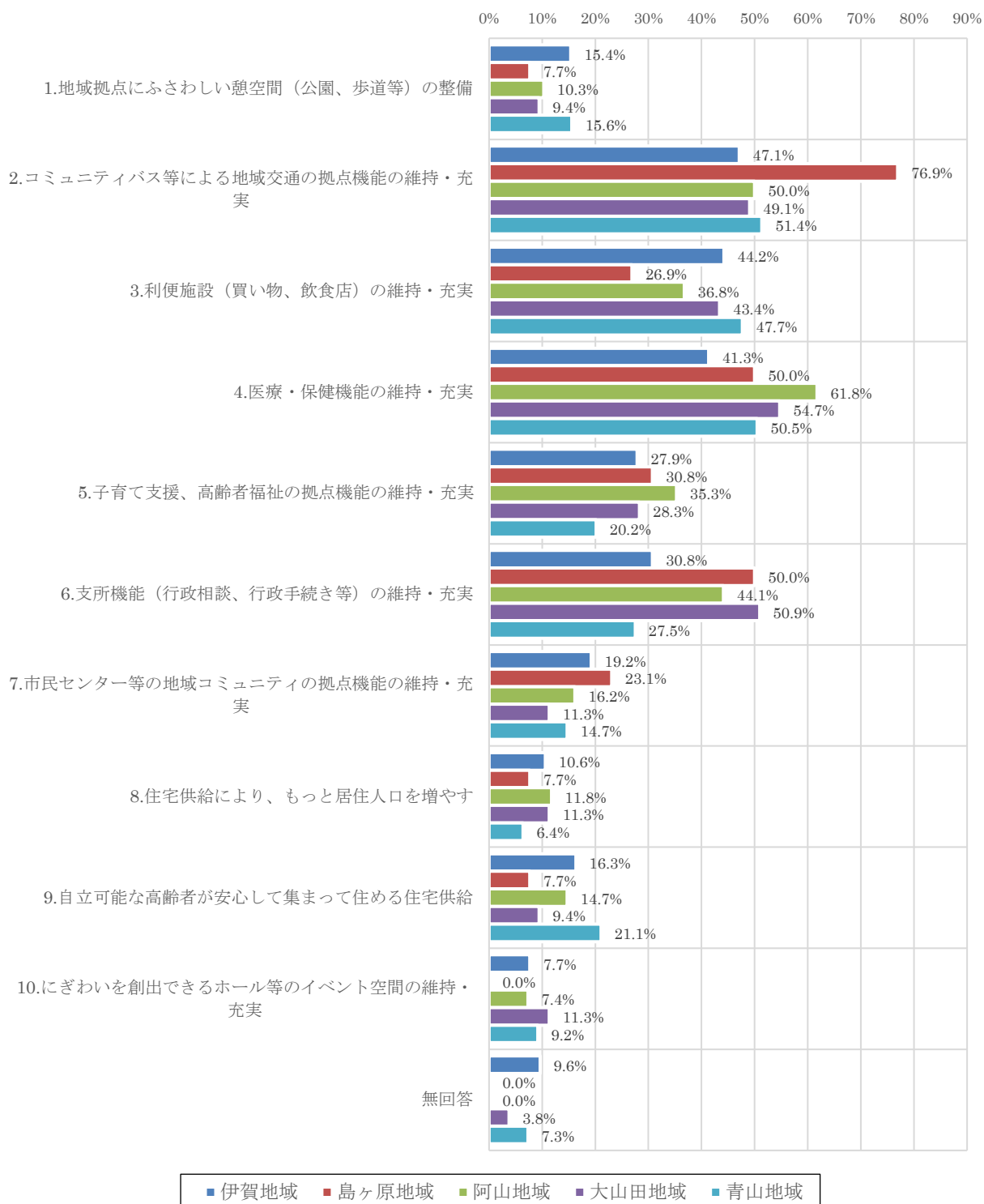
- ・映画館が欲しい
- ・南部の整備は不要（南部に大規模な施設はムダ）
- ・交通ネットワークが悪い（庁舎へ行くための道路が不便）
- ・歩道、自転車用道路の整備（四十九駅や市街地方面からのルートに歩道がない）
- ・行政、医療、利便施設の距離が離れすぎ
- ・上野卸商業団地の再開発



### 3. 地域拠点（各支所周辺）【問 4】（複数回答、3つ以内）

地域拠点のまちづくりの重要施策の上位3つは、各支所管内別にほとんど変わらず要望は同じと考えられるが、伊賀地域と青山地域は、支所機能より便利施設（買い物、飲食店）が上位にきている。

- ・伊賀地域：①地域交通の拠点機能、②**便利施設（買い物、飲食店）**、③医療・保健機能
- ・島ヶ原地域：①地域交通の拠点機能、②医療・保健機能、②支所機能
- ・阿山地域：①医療・保健機能、②地域交通の拠点機能、③支所機能
- ・大山田地域：①医療・保健機能、②支所機能、③地域交通の拠点機能
- ・青山地域：①地域交通の拠点機能、②医療・保健機能、③**便利施設（買い物、飲食店）**



## (4) 日常生活における各拠点の利用状況

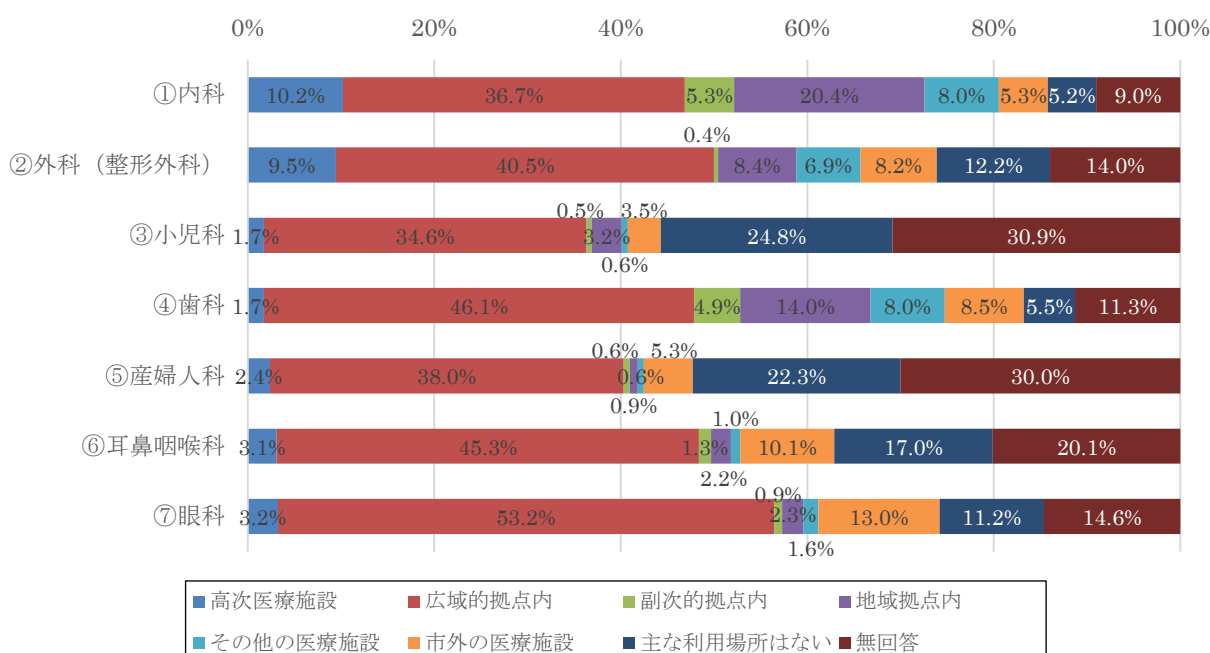
### 1. 医療【問5(1)】

日常生活における医療の利用状況は、各科とも広域的拠点の占める比率が高く、特に40%を超えているのは、外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科である。

高次医療施設の利用は、内科、外科が10%程度で他は少ない。

地域拠点内は、内科、歯科の利用率が高い。

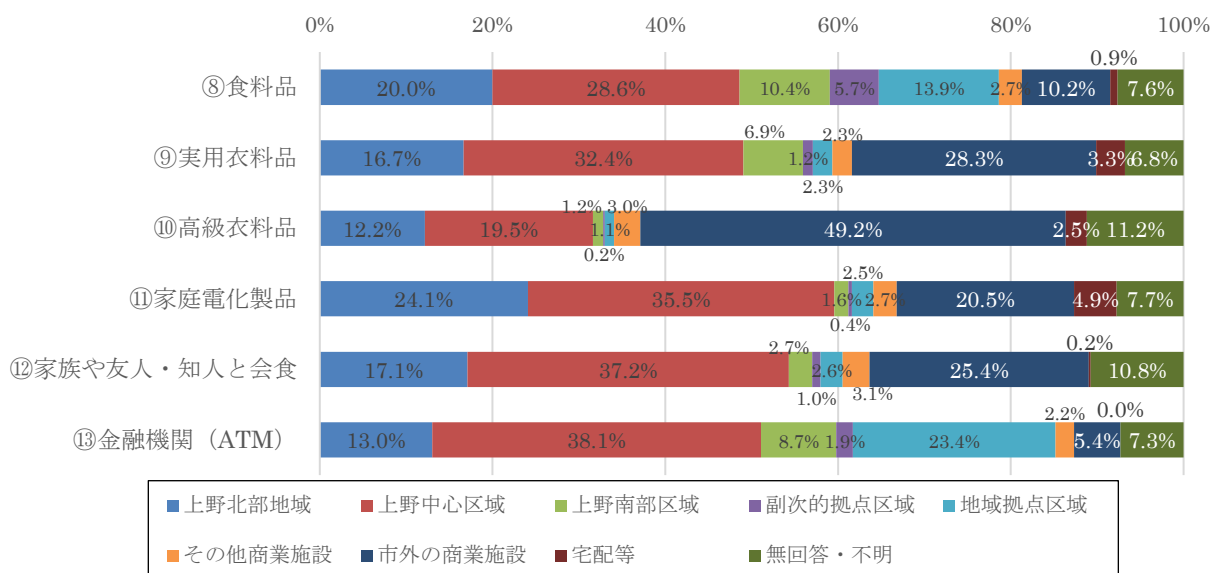
市外の医療機関については、すべての科で利用されているが、耳鼻咽喉科や眼科という専門性の強い科目で利用率が高い傾向がある。

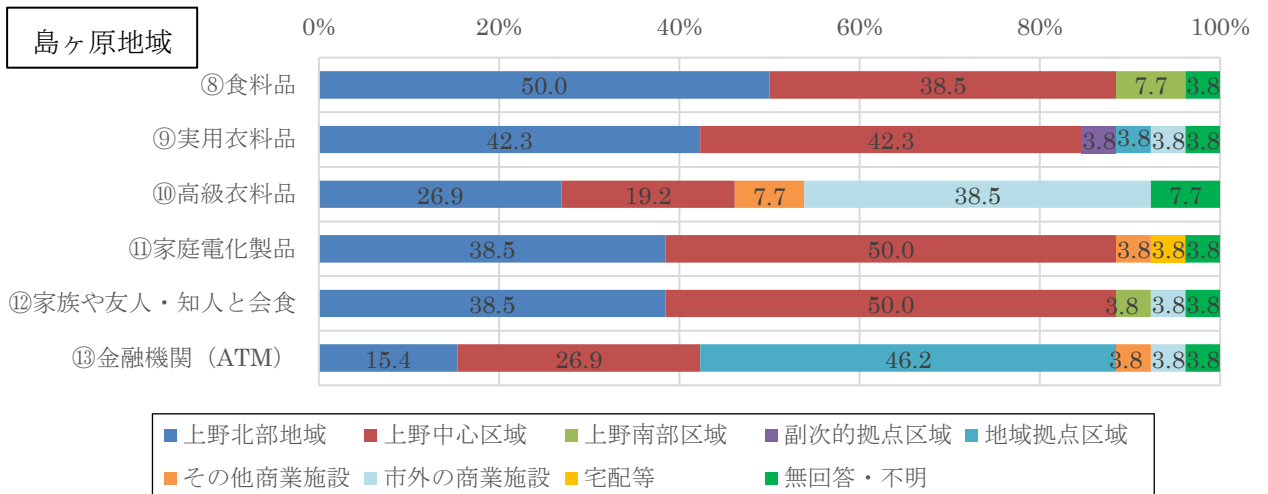
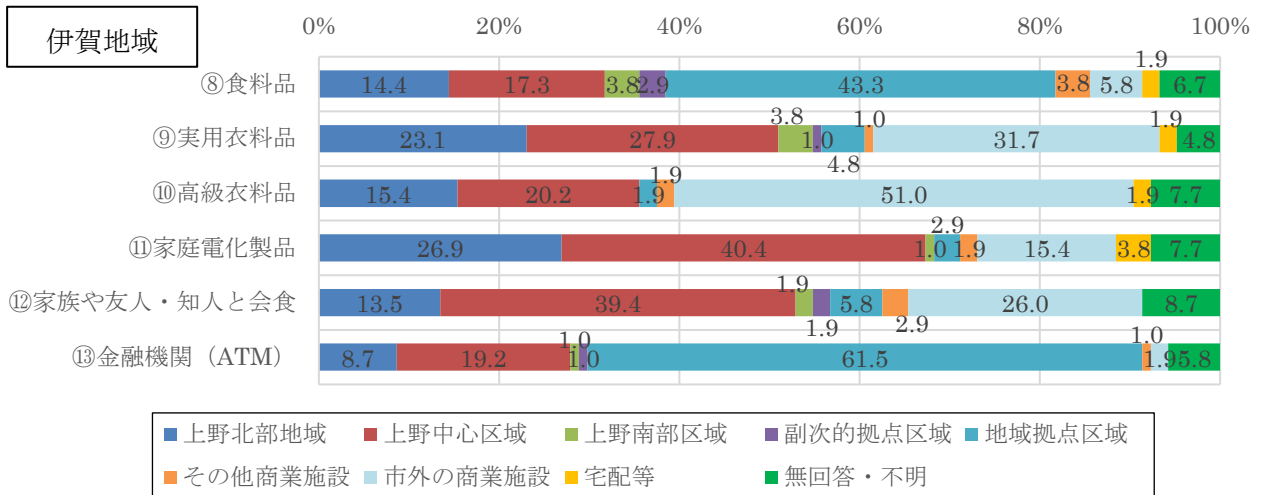
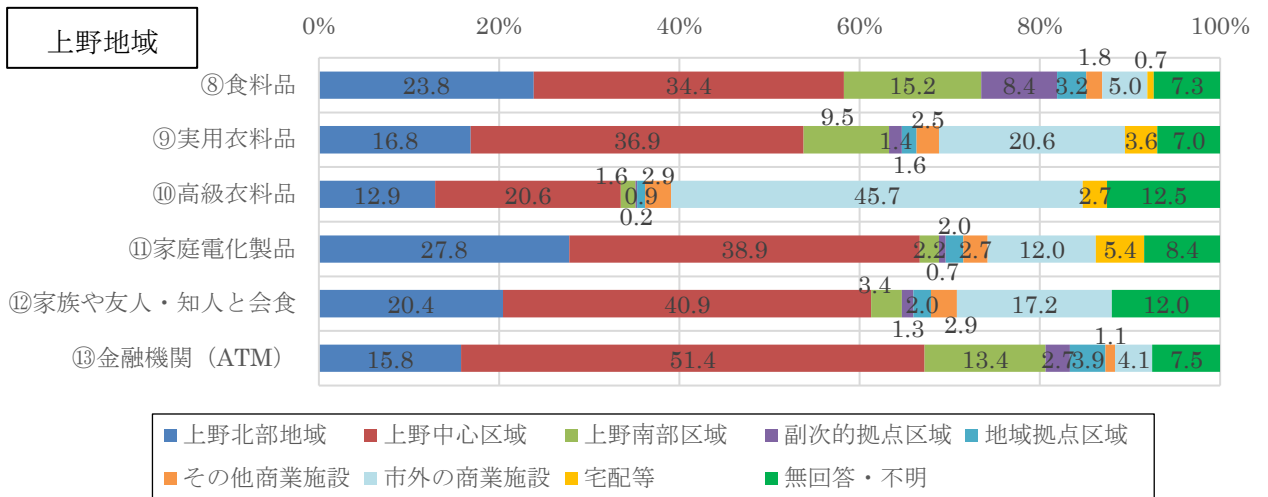


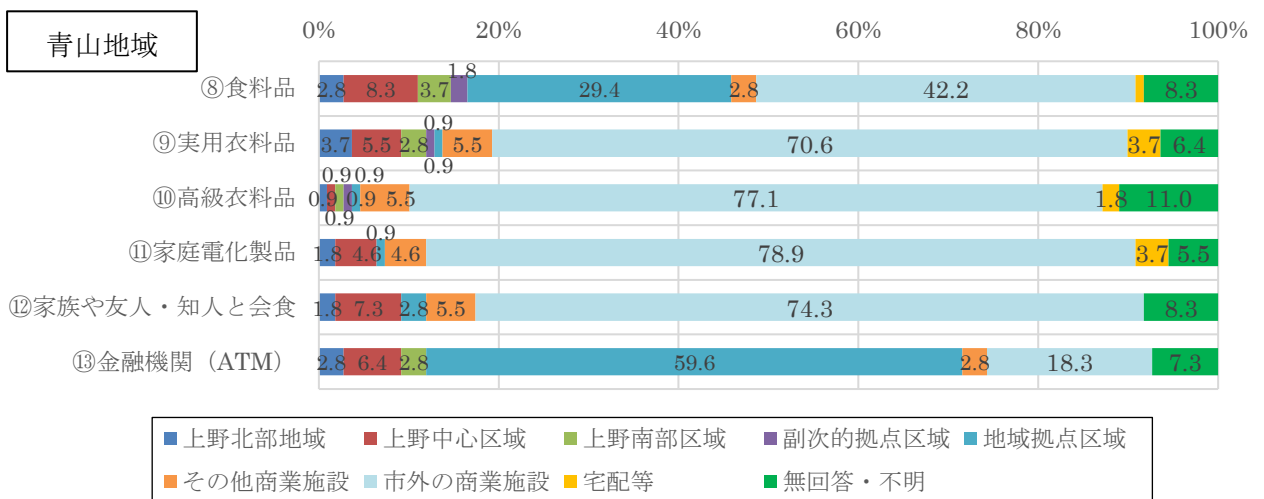
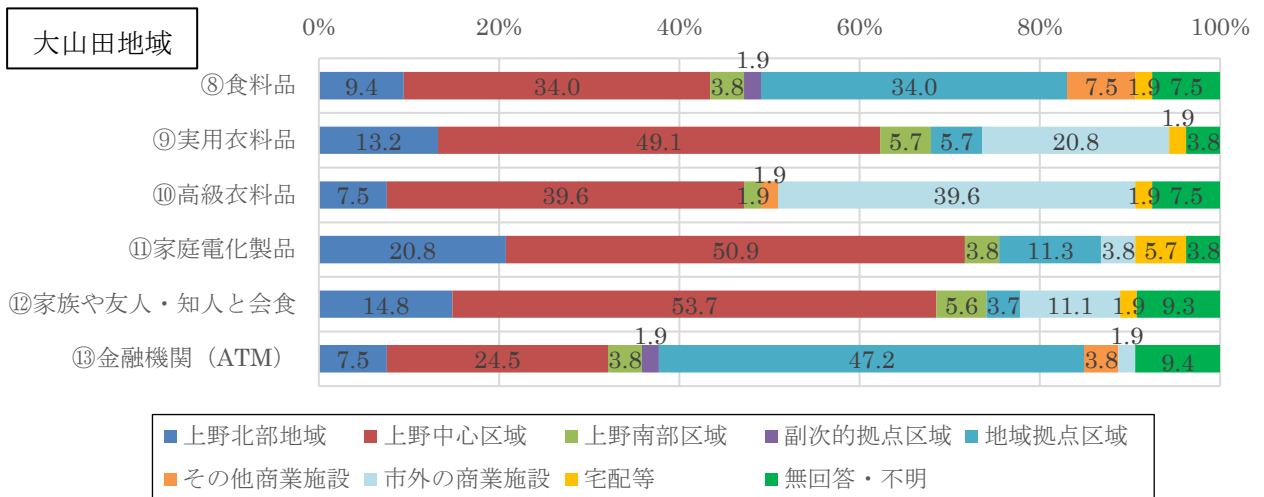
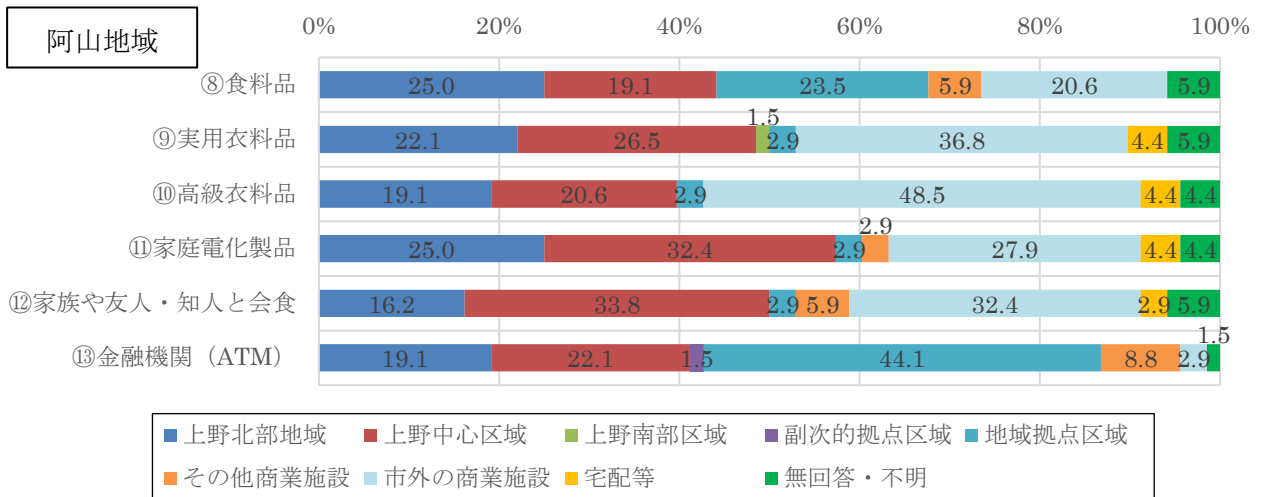
### 2. 買い物等【問5(2)】

日常生活における買物等の利用状況は、食料品と金融機関は地域拠点区域の比率がある程度確保され、その役割が機能しているが、他の項目では低い率となっている。

市外の商業施設は、「高級衣料品」で49.2%、「実用衣料品」28.3%、「家庭電化製品」20.5%、「家族や友人と会食」25.3%と、20%以上となっている。地域別にみると、p19に示すように、阿山、青山が市外の商業施設の利用度が高く、特に青山は、食料品も42.2%市外である。







## (5) 今後伊賀市が行うべき施策

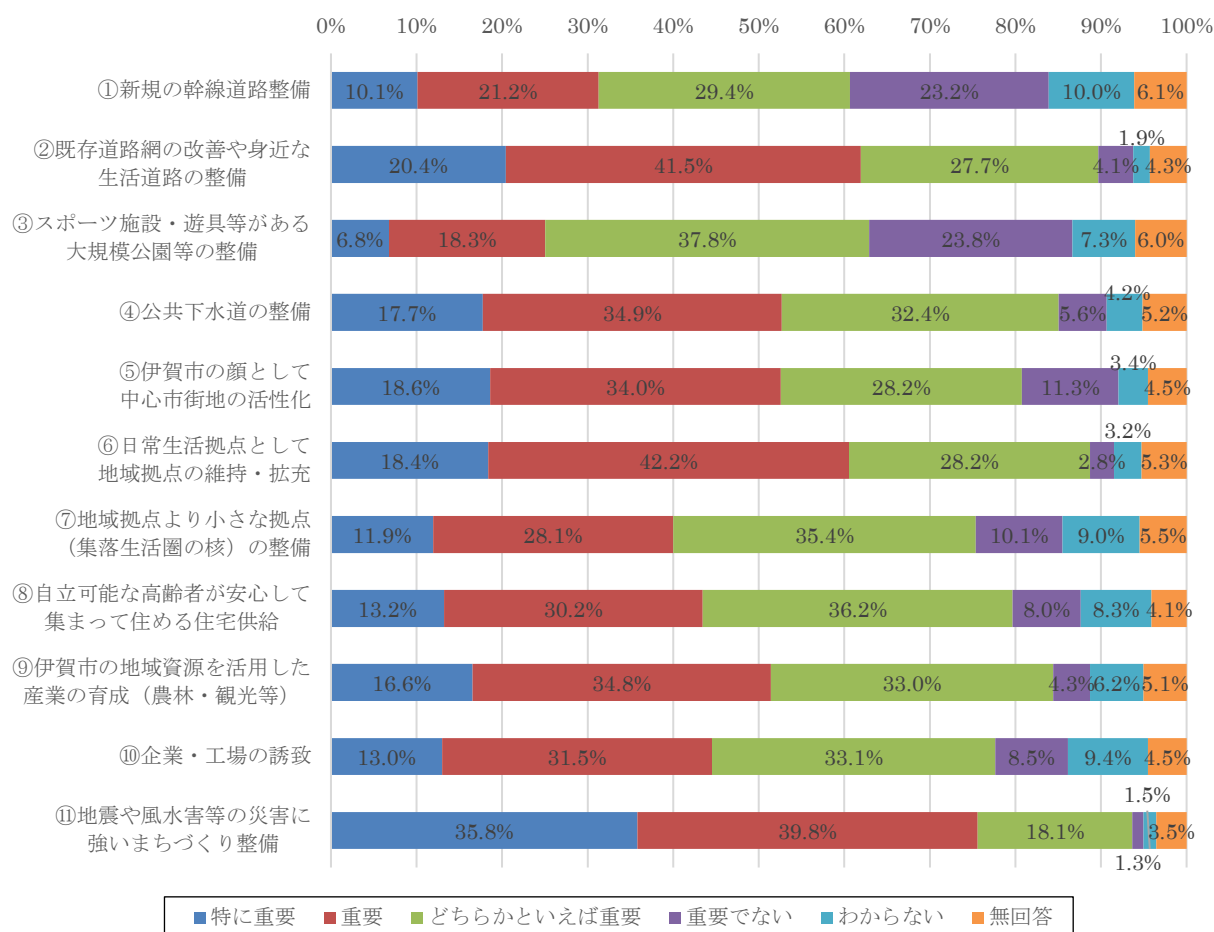
### 1. 伊賀市全体の施策【問6】

今後伊賀市が行うべき施策で「特に重要」「重要」の合計が最も高いのは、「⑪地震や風水害等の災害に強いまちづくり整備」で75.6%である。

「特に重要」「重要」の合計が50%を超えるのは、「②既存道路網の改善や身近な生活道路の整備」61.9%、「④公共下水道の整備」52.6%、「⑤伊賀市の顔としての中心市街地の活性化」52.6%、「⑥日常生活拠点として地域拠点の維持・充実」60.6%、「⑨伊賀市の地域資源を活用した産業の育成」52.4%である。

各支所管内別「特に重要」「重要」の合計上位3つはほとんど変わらないが、上野地域の「中心市街地の活性化」、青山地域の「公共下水道の整備」が、他の地域とは相違している。他の4地域は、「地域拠点の維持・充実」の重要度が高い。

- ・上野地域：①地震や風水害等の災害、②既存道路網の改善等、③中心市街地の活性化
- ・伊賀地域：①地震や風水害等の災害、②地域拠点の維持・充実、③既存道路網の改善等
- ・島ヶ原地域：①地震や風水害等の災害、②既存道路網の改善等、②地域拠点の維持・充実
- ・阿山地域：①地震や風水害等の災害、②既存道路網の改善等、③地域拠点の維持・充実
- ・大山田地域：①地震や風水害等の災害、②地域拠点の維持・充実、③既存道路網の改善等
- ・青山地域：①地震や風水害等の災害、②既存道路網の改善等、③公共下水道の整備



## 2. ネットワーク【問6】

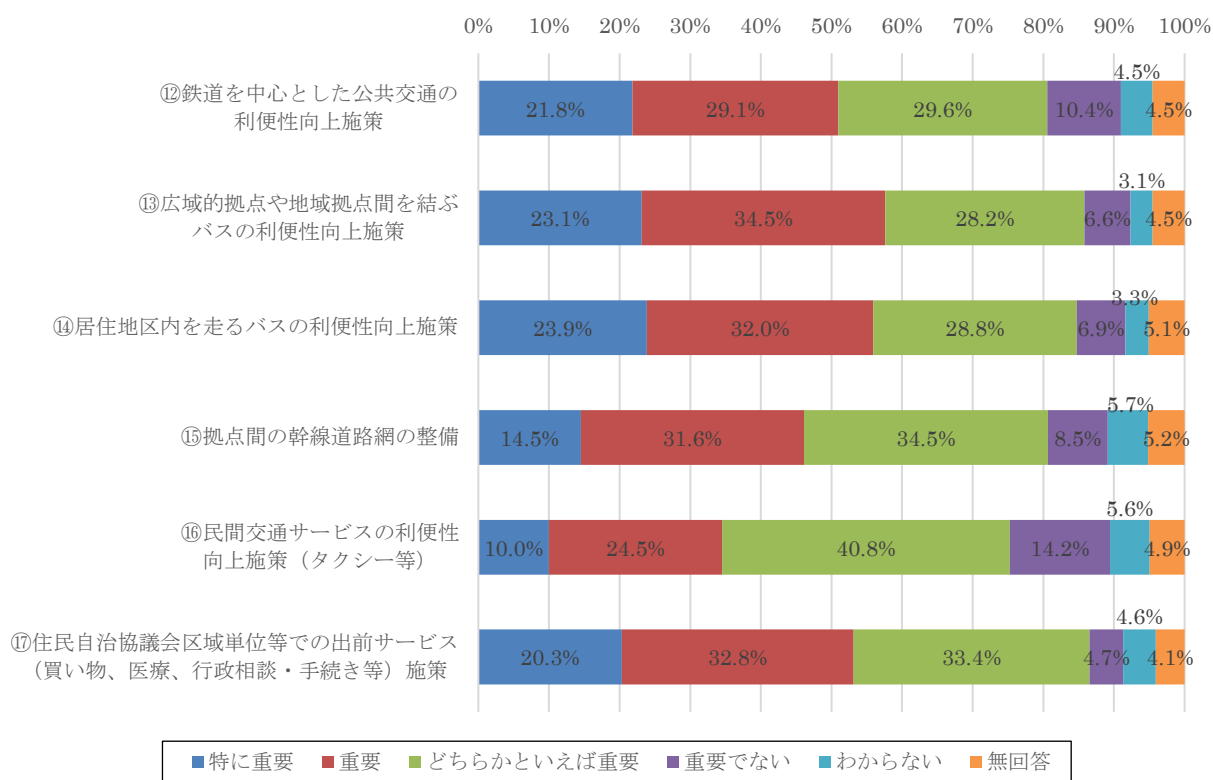
今後伊賀市が行うべき施策で「特に重要」「重要」の合計が最も高いのは、「⑬広域的拠点や地域拠点間を結ぶバスの利便性の向上」で57.6%である。

「特に重要」「重要」の合計が50%を超えるのは、「⑫鉄道を中心とした公共交通の利便性向上策」50.9%、「⑭居住地区内を走るバスの利便性向上策」55.9%、「⑰住民自治協議会区域単位での出前サービス施策」53.1%、である。

このように、公共交通の充実は、基幹ルートのみのような特化した施策はなく、鉄道、居住地区内ルートすべてに対して充実が求められている。

なお、「どちらかといえば重要」を加えると、「⑰住民自治協議会区域単位での出前サービス（買い物、医療、行政相談・手続き等）施策」が86.5%で最も高くなっており、公共交通に依存しない利便性向上策も求められている。

なお、地域的に見た場合も大きな相違はない。





## (6) 市民アンケート結果における地域別特性のまとめ

### 1) 生活環境の評価

- ・強みは、快適性の評価が高く、上野地域と伊賀地域のみ利便性の要素が評価されている。
- ・弱みは、すべての地域で利便性の要素であるが、上野地域の「道路の安全性」、島ヶ原地域の「大きな公園の利用」は、安全性、快適性の要素の満足度が低く評価されている。
- ・施策の重要度は、「病院、診療所の利用のしやすさ」がすべての地域で重要と評価されている。その他は、地域により特性がみられるが、伊賀地域の「居住環境」を除けばすべて、「利便性」と「安全性」の要素である。

#### ■ 生活環境の地域特性比較

地域名	強み (満足度高)	弱み (満足度低)	施策の重要度
伊賀市全体	⑪居住環境 (騒音・振動・臭気等) ⑫生活排水による水質汚濁の状況 ⑭周辺の山林や水辺地等の自然環境	③公共交通 (バス・鉄道等) の利便性 ⑦子どもの遊び場や身近な公園 ⑤高齢者福祉施設の利用のしやすさ	④病院、診療所の利用のしやすさ ①食品等日常の買い物のしやすさ ②地震や火災に対する安全性
上野地域	①食品等日常の買い物のしやすさ ⑥国道・県道等の幹線道路へのアクセスのしやすさ ⑫生活排水 (以下略)	③公共交通 (以下略) ⑦子ども (以下略) ⑰身近な生活道路や歩道の安全性	①食品等日常 (以下略) ④病院、診療 (以下略) ②交通事故に対する安全性
伊賀地域	⑫生活排水 (以下略) ⑥国道・県道 (以下略) ⑭周辺の山林 (以下略)	③公共交通 (以下略) ⑦子ども (以下略) ⑤高齢者福祉 (以下略)	④病院、診療 (以下略) ①食品等日常 (以下略) ⑪居住環境 (以下略)
阿山地域	⑪居住環境 (以下略) ⑭周辺の山林 (以下略) ⑮街路樹やまちの緑の豊かさ	③公共交通 (以下略) ⑦子ども (以下略) ②通勤・通学のしやすさ	⑲風水害・地すべり等の対する安全性 ④病院、診療 (以下略) ③公共交通 (以下略)
島ヶ原地域	⑪居住環境 (以下略) ⑫生活排水 (以下略) ⑮街路樹 (以下略)	③公共交通 (以下略) ⑬スポーツのできる大きな公園の利用のしやすさ ⑤高齢者福祉 (以下略)	④病院、診療 (以下略) ⑤高齢者福祉 (以下略) ⑲風水害・地すべり (以下略)
大山田地域	⑫生活排水 (以下略) ⑪居住環境 (以下略) ⑭周辺の山林 (以下略)	③公共交通 (以下略) ②通勤・通学 (以下略) ④病院、診療所の利用のしやすさ	④病院、診療 (以下略) ③公共交通 (以下略) ②通勤・通学 (以下略)
青山地域	⑪居住環境 (以下略) ⑭周辺の山林 (以下略) ⑫生活排水 (以下略)	③公共交通 (以下略) ⑦子ども (以下略) ④病院、診療 (以下略)	①食品等日常 (以下略) ④病院、診療 (以下略) ②犯罪に対する安全性

※・太字表示が、伊賀市全体との相違項目

・表示の順番は、強み、弱み、重要度の順位を示している。

## 2) 地域拠点の重要施策等

- ・地域拠点の重要施策は、全体では「地域交通」「医療・保健機能」「利便施設」の3つで、「支所機能」の重要度が高いのは、阿山、島ヶ原、大山田地域である。
- ・日常生活施設の地域拠点利用率は、内科、食料品、金融機関で他は低い。
- ・伊賀市全体の重要施策は、上野地域と青山地域以外は皆同じである。

地域名	地域拠点の重要施策	日常生活（地域拠点率）	伊賀市全体の重要施策※2
伊賀市全体	②コミュニティバス等による地域交通の拠点機能の維持・充実(51.4%) ④医療・保健機能の維持・充実(50.6%) ③利便施設(買い物、飲食店)の維持・充実(42.5%)	・内科(20.4%) ・外科(8.4%) ・小児科(3.2%) ・食料品(13.9%) ・実用衣料品(2.3%) ・会食(2.6%) ・金融機関(23.4%)	①地震や風水害等の災害に強いまちづくり(75.6%) ②既存道路網の改善や身近な生活道路の整備(61.9%) ⑥日常生活拠点として地域拠点の維持・拡充(60.6%)
上野地域 ※1		・内科(58.4%) ・外科(52.0%) ・小児科(41.2%) ・食料品(58.0%) ・実用衣料品(47.8%) ・会食(45.6%) ・金融機関(67.5%)	①地震や風水害(74.5%) ②既存道路網(61.2%) ⑤中心市街地の活性化(60.8%)
伊賀地域	②コミュニティバス(以下略)(47.1%) ③利便施設(買い物、飲食店)の維持・充実(44.2%) ④医療・保健(以下略)(41.5%)	・内科(49.0%) ・外科(18.3%) ・小児科(8.7%) ・食料品(43.3%) ・実用衣料品(4.8%) ・会食(5.8%) ・金融機関(61.5%)	①地震や風水害(74.0%) ⑥地域拠点(62.5%) ②既存道路網(57.7%)
阿山地域	④医療・保健(以下略)(61.5%) ②コミュニティバス(以下略)(50.0%) ⑥支所機能(行政相談、行政手続き等)の維持・充実(44.1%)	・内科(52.9%) ・外科(16.2%) ・小児科(5.9%) ・食料品(23.5%) ・実用衣料品(2.9%) ・会食(2.9%) ・金融機関(44.1%)	①地震や風水害(79.4%) ②既存道路網(66.2%) ⑥地域拠点(63.3%)
島ヶ原地域	②コミュニティバス(以下略)(76.9%) ④医療・保健(以下略)(50.0%) ⑥支所機能(以下略)(50.0%)	・内科(61.5%) ・外科(11.5%) ・小児科(15.4%) ・食料品(0.0%) ・実用衣料品(3.8%) ・会食(0.0%) ・金融機関(46.2%)	①地震や風水害(84.7%) ⑥地域拠点(80.7%) ②既存道路網(80.7%)
大山田地域	④医療・保健(以下略)(54.7%) ⑥支所機能(以下略)(50.9%) ②コミュニティバス(以下略)(49.1%)	・内科(20.8%) ・外科(1.9%) ・小児科(3.8%) ・食料品(34.0%) ・実用衣料品(5.7%) ・会食(3.7%) ・金融機関(47.2%)	①地震や風水害(88.7%) ⑥地域拠点(79.2%) ②既存道路網(71.7%)
青山地域	②コミュニティバス(以下略)(51.4%) ④医療・保健(以下略)(50.5%) ③利便施設(以下略)(47.7%)	・内科(45.0%) ・外科(28.4%) ・小児科(6.4%) ・食料品(29.4%) ・実用衣料品(0.9%) ・会食(2.8%) ・金融機関(59.6%)	①地震や風水害(74.3%) ②既存道路網(60.6%) ④公共下水道の整備(58.7%)

※1：上野地域の日常生活の率は、広域的拠点内（上野中心区域・上野南部区域）、副次的拠点内の合計値

※2：伊賀市全体の重要施策の率は、「特に重要」と「重要」の合計値

### 3. 市民意向からみた都市づくりの課題

市民アンケートの結果を踏まえ、市民の意向からの都市づくりの課題を整理すると、以下の6つとなる。

#### ■市民の意向からの都市づくりの課題まとめ

